

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4472600966
法人名	医療法人 土生医院
事業所名	グループホームさくら
訪問調査日	平成19年 7月24日
評価確定日	平成19年11月 9日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4 4 7 2 6 0 0 9 6 6
法人名	医療法人 土生医院
事業所名	グループホーム さくら
所在地	豊後大野市三重町市場598番地の1 (電 話) 0974-22-3695

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成19年 7月24日	評価確定日	平成19年11月 9日

## 【情報提供票より】(平成19年 7月5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年 2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤	6人, 非常勤 0人, 常勤換算 6人

### (2) 建物概要

建物構造	平屋	造り
	階建ての	階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	円	その他の経費(月額)	8,820 円
敷 金	有 ( 円 )	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円 )	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

### (4) 利用者の概要(7月5日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	74 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 土生医院
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. 市役所や消防署・銀行・スーパーなど近くにあり、とても便利な立地条件で地域に知られた医療施設と隣接し、立ち寄りやすい雰囲気である。
2. 建物が全体的に明るく木の温もりを感じられ、また草花をいたるところに飾り季節感を出している。
3. ホーム長を中心に職員が研究に意欲的に取り組み、事業所独自の課題を決め皆で話し合いケアに活かしている。特に口腔ケアによる言語や嚥嚥の改善など成果が現れている。
4. 職員は一人ひとりの状態を把握し、心の動きに目を向け尊重した対応で、穏やかな声掛けにより信頼関係が見られる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価結果を受け、改善に向けての話し合いを行い、具体的に取り組んでいる。改善できなかった点については、職員で引き続き話し合い取り組む姿勢である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員で話し合い自己評価と共に自己反省をし、自分たちなりの課題や取り組みへの気づきが見られる。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族や市担当者・地域住民などが参加し、市からの情報提供や制度説明など行政と良い関係ができ、また意見や疑問についても課題としてホーム職員が話し合い次の会議で報告している。意見の内容によっては職員が研修してケアに活かしている。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会があり意見・質問や要望が出されているが、今後は家族のみの意見の出しやすい場づくりも計画している。家族が面会にくる事も多く訪問時は職員と気さくに話をし、職員それをは謙虚に受け止めている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近くの保育所と2ヶ月に1度交流、看護学生のボランティアを受入れたり地区のお祭りの神楽舞訪問などあるが、地元自治会に加入してのふれあいや交流は、今後の課題である。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	すでに理念は作られているが、地域密着型サービスとしてのグループホーム独自のものではない。	○	地域密着型サービスを実践していくため職員で話し合い、より具体的な理念をつくりあげる求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設時の理念はあるが、現状に即した理念を職員で作る上げる計画があり、ケアに具体的に活かせていない状況である。	○	管理者と職員が十分に話し合い、地域に密着したさら独自の理念を作り、日々のサービスに具体的に活かすことが求められる。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの保育園との交流・看護学校からのボランティア受け入れなどは見られるが地域自治会への加入や地域住民との交流はしていない状況である。	○	地域の一員として自治会に加入し、自治会活動に参加するなど地域と関係を密にして支えあって行くことが求められる。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価について職員間で話し合い、改善に向けての取り組みが見られ、今回の自己評価に際しても職員と確認しあう中でケアの見直しや反省など気づきが見られ活かそうとする姿勢である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議が開かれており、市の担当者・家族・地域の保健師などが会議に参加して、ホームから現状や課題が報告され、参加者から積極的な意見が出され、出された意見をケアに活かそうと取り組みが見られる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所が近く、担当者顔見知りの関係ができ事業所としての考え方や運営を伝えている。また、運営推進会議には市役所職員が参加して、意見を出し協働の関係が作られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の暮らしぶりや行事開催のお知らせなど手紙で伝え、面会時には職員と具体的に話し合い、必要に応じては随時電話連絡をしている。金銭の管理についても定期的に家族に提示して確認をとっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で参加者より意見や要望が出されている。家族ごとの話し合いも計画し、また面会時は個別の意見や思いを聞き取り、職員は謙虚に受け止め反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係つくり心がけており、職員の異動や離職に関しても事前に伝え大切な情報は共有し、管理者を中心に家族や本人の気持ちを大切に信頼関係ができています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加して、内容については職員間で共有している。また職場内研修がホーム長を中心に積極的に行われており課題を全職員で考えケアに活かしている。ホーム長が認知症に対して前向きな考えを持ち、計画的な職員育成を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のグループホームと交流をして、ケアのためのプラン作成や実践について具体的に相談を行っている。職員間の交流も計画している。他グループホームとの交流を質の向上に活かそうとする意欲が見られる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族がホームを見学して、入居者とお茶を飲みながら一緒にふれてもらい、内容や状況を知っていた上で、職員が2名で訪問して暮らしぶりや生活歴を情報収集し馴染みの関係づくりを工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はゆったりと寄り添い、家族のように支えあう気持ちを持っており、支援の中でも本人の思いやこだわりを配慮している。利用者は職員をいたわり喜怒哀楽を共にできる関係である。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らしぶりを知るため、入居前に訪問して具体的に把握すると共に入居後も日々の会話から聞き取り、失語症の方には表情や動きから本人の意向捉えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回ケアについて話し合い、職員が本人から聞いたことや状況から読み取ったことを伝え合い、プランに反映している。参加できない職員に対しても、確実に会議内容の確認をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに計画の見直しをし、状態の変化に応じて随時の見直しを行っている。家族の面会時に話し合い、思いや意見を取り入れた計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や受診の時は、家族の状況に応じて付き添っている。また隣接の医療機関との連携ができており、随時医師や看護師と相談支援が得られる体制である。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院と併設したホームであるが、本人や家族のそれまでのかかりつけ医を尊重して自由に通院受診をしている。ホーム長が医者であることから日常的な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応についてホーム長(医者)と家族・職員で十分に話し合い、随時の方針や要望に対応でき夜間でも可能となっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は穏やかで声掛けもやさしく一人ひとりを尊重している。プライバシーや個人情報に関しては、職員間で研修をし、日常の介護でも互いに注意をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての基本的な流れはあるが、その日の状態や気持ちを尊重した個別支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は食事を楽しむことの意義を理解して、季節の食材や好きな物を話し合い、本人の見えるところで話しながら家庭的な雰囲気の中にも五感による刺激で食欲を促している。食事の配膳や片付けもできる人が参加し、職員は見守り一緒に楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間の設定は月曜から土曜の午後としているが、入浴日や入りたい時間は自分で好きなように決めて、ゆっくりと楽しんで入れるよう支援している。また、夜間入浴の希望はないが今後取り組む姿勢である。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活のできることを役割として、花の水遣り・団子汁づくり・皮むき・お茶入れ・洗濯干し・絵手紙・カーテンの開閉など行い、楽しみながら發揮している。また職員は感謝の言葉を伝え、意欲を継続できるよう配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事やドライブで定期的な外出と毎日の生活の一部として外に出ている。庭先の木陰に出ではイスにかけて季節を楽しみ、近所の商店や銀行・散歩など要望や身体機能に応じて実施している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関前の鍵は施錠していない、職員が気配りしているが利用者がホームの回りに出ていることもあり心配もある。国道に面しているため危険も考えられるが鍵をかけない努力をしている。外出希望の強い人については職員が話を聞いたり家族の面会を電話で呼びかけ防止に努めているが職員で話し合い対応を検討中である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時や緊急時の連絡体制は整備され、避難訓練の重要性を認識しているが実施していない。	○	消防署・消防団・地域と連携した避難訓練を行い、災害発生時の地域協力体制のを築くとともに、職場内においても一人勤務(夜勤)時の支援手順等を話し合うことが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設病院が献立のカロリーを考えてくれており水分摂取についても1日1600cc以上摂取している。また食べ物や飲み物の好みを把握して美味しく食べるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木の温もりの伝わる建物で、台所と居間が続きになって食事づくりの状況が五感で感じられるづくりである。沢山の草花で職員は季節を伝える努力をしている。しかし馴染みの物や家庭的な雰囲気は薄く自宅の延長としての生活感の工夫は少ない。	○	懐かしいものや馴染みの小さな物を活用し、居心地の良い空間や話の糸口づくりなどの工夫が望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やプレゼントを部屋のテーブルに飾って、馴染みの物を持ち込んでいる人もいるが、全体的に似た空間で本人らしさや落ち着いて過せる自分の居場所としての個性が少ない。	○	画一的な空間づくりでなく一人ひとりの個性に応じた使い慣れた物や懐かしい思い出の小さな品など本人らしく安心して過せる空間づくりの配慮が求められる。





# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

※ 記入の際は、必ず「地域密着型サービスの自己評価項目構成」を参照してください。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>Ⅴ. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

**○記入方法**

**[取り組みの事実]**  
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに問わず事実を記入)

**[取り組んでいきたい項目]**  
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

**[取り組んでいきたい内容]**  
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

**[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)**  
日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

**○用語の説明**  
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
家族 = 家族に限定しています。  
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかかわる場合は、その人を指します。  
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

**○評価シートの説明**  
評価調査票は、プロセス評価の項目(№1から№87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(№88から№100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	グループホーム さくら
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	豊後大野市三重町市場546番地の3
記入者名 (管理者)	阿南 昭子
記入日	平成 19 年 7 月 5日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今までの理念を見直し、住みなれた地域で安心した暮らしをささえるための明確な理念を職員と考え、作りたい。	○	地域密着型サービスとしてなにが大切かを考え理念の見直しをしたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員にミーティング、申し送り、常に理念を意識してサービスの提供を行うようはなしている。	○	職員に意見を出し合ってもらい理念を作り、自分たちの作った理念を実践するよう努力したい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には利用契約時、家族会等で伝え、。運営推進委員会会議で地域のかたに伝えている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームは病院の敷地内にあり、周りは住宅が隣接しているため、職員も通勤の、行き帰りに隣近所の人と挨拶を交わしたり、商店の方が配達に来て利用者の方と世間話をされたり、知人が病院の帰りに立ちよってくださる、		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	2ヶ月に1回、町内の保育園と交流会を行ったり、看護学校の学生がボランティアとして活動しにきたり、地域のお祭りではお神楽を舞いに来てくださる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>地域の会合でグループホームの紹介をしたり、認知症の家族の方が見学に見え介護保険や認定調査の手続きの相談の対応している。知人からの介護に関する質問などに対応している。</p>		
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>前回の外部評価の結果を職員に伝え、日常の業務の見直し改善につとめているが改善に結びつかないこともある。自己評価をすることで日ごろのケアの見直しが出来、反省点をあらためてかくにんしている</p>	○	外部評価の結果を参考にし、より良いサービスの提供につなげられるように努力したい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>運営推進会議では事業所からの報告に対して参加メンバーから質問、意見、要望を出してもらい、検討課題は次回の会議で経過報告をしている。これから先の会議で外部評価のことも報告したい。</p>	○	運営推進会議で評価の取り組み状況等について報告し、意見をサービス向上に活かしたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>市役所に近いこともあり、制度のこと、福祉、研修、などいろいろ相談にのってもらっている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>管理者は研修などで学ぶ機会があつたが、職員に説明していない。対応が必要な利用者もおらず活用していない。制度のことを再度勉強しなおし職員や利用者、家族に情報の提供、支援が出来るようにしたい。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>ミーティングなどで虐待について話したり、介護の現場では絶対あってはいけないことで、防止に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解、納得を図っている	契約時は契約書を読みながら説明している。特に利用料金や事業所のケアに関する取り組み、起こりうるリスクについて説明をしている。家族等の疑問点を尋ね、理解・納得を得るようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員が利用者の意見・不満を聞けば、管理者に報告し、ミーティングなどで対応を話し合い、ホーム長に助言をもとめている。食事時献立の希望・好き嫌いなものを聞いている。、自分の思いや意見をいえない利用者は表情や言動から本人の意向を探るようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月請求書の発送時、利用者の暮らしぶりや、ホーム内で行う行事などのお知らせ、交流会の様子を書いた手紙を同封している。家族等の来訪時には、家族の話の聞いたり、利用者の状況を伝え、必要時に電話を利用し報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会では1人1人の参加者の、意見、希望を聞きホーム長が説明、対応している。日常では、管理者が相談窓口となり意見・要望を聞き、ミーティングなどで話し合い、事業所内の質の向上に取り組んでいる。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ホーム長出席の定例会を行い、事業所の運営・職員採用・利用者の受け入れ・業務・などのことでホーム長より説明があり、職員の意見を聞くきかいを設けている。管理者、は職員の意見を聞くよう心がけているが不満や苦情は把握しきれないと思う。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や外出の予定日に職員の出動人数を増やしたり、職員の急病時や利用者の状態に応じ、同じ法人の職員にシフトに入ってもらい、利用者の暮らしを支えられる配慮している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、ご家族と信頼関係を築くには、馴染みの職員が対応することの重要性は常に感じている。離職などでの職員の交代は、利用者へ挨拶、説明し、利用者のダメージを防ぐよう注意している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修を受講し、研修報告は毎月の定例会で発表してもらう。事業所内でホーム長から課題が出され、課題の勉強を行い、定例会で発表、ホーム長より助言があり知識の向上に努め、ている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームくたみのもりとの、交流、相互訪問や勉強会を考えている。開設以来、管理者同士は交流を続けている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間に休憩室で休めるようにしている。定例会などで職員のはなしを聞くようにしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員に、テーマを与えて取り組み、発揮させている。又、資格に応じて研修に行ってもらっている。	
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用について相談があつた時、必ず本人にあつて心身の状態や、おもいを知りたいと、お話を聞くようにしている。健康な頃のお話も聞くようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の話を時間をかけて聞くことで、ご家族の困っていること、不安なことを把握し、事業所が行っているサービスの内容を説明するようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、事業所での対応が困難なときは、他のサービス機関と連携をとり改善に向けた支援の提案を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談時に、事業所の見学をしていただき、本人と会い、お話をし、職員の顔を覚えていただくことからはじめ、利用を始めるときは、他の利用者に紹介し、馴染めるよう、常にみまもり、声がけし、ご家族や知人に来ていただくなどしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ひとつの家族のような関係が出来、利用者の不安、喜び、思いを共感し、理解するよう努力している。利用者から人生の先輩として教えてもらうことが多い。利用者からいたわりの言葉をかけられ慰められることがある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用開始時、本人の生活の様子、ご家族の介護の様子を聞きホームでの生活を自宅の生活に近づけるようなサービスを心がけている。利用者の様子や職員のおもいを伝え相談などしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	サービス開始時、家族の面会が、一番本人の喜びになること、面会時間は何時になってもいいことをお伝えしている。外泊、外出のすすめ、電話の取次ぎを行い、機会あるごとに本人の様子をお知らせするようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの商店に配達してもらったり、行きつけの美容室に家族に連れて行ってもらう、近くの銀行に職員付き添いで行ったり、ホームに知人、友人に尋ねてもらったりして地域とのつながりを継続できるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間の関係を日常生活の中で常に観察するようにし、関わり合いがうまく出来るよう、声掛け、説明などし、お互い支えあい、楽しく暮らしていけるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今までは身体的理由での契約の終了がほとんどで、病院へ移られても、お見舞いに行き、本人、家族との関係がつづくようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのかかわりの中で、機会を見て一人、一人の方と会話するよう心がけ、利用者のお話を良く聞き、希望や意向を把握するようにし、言葉で表せない利用者は、行動や表情から汲み取り、把握している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用開始時に、ご家族に記入用紙をお渡しし、生活歴や馴染みの暮らし方など記入していただき、不明な点やホームでの暮らしに必要なことは、直接、ご家族に尋ねている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活のリズム(睡眠、排泄の時間、食事量、バイタル)を記録し職員全員が把握し、本人の日常生活で出来ることに注目し、本人の全体像を把握している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日ごろのかかわりの中で、思いや、意見を聞きミーティングなどで職員と話し合い作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、状態が変化した際には、本人、家族、職員などと話し合い、新たな計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作り、食事、水分量、排泄、バイタル、を記録し、職員が確認、一日のケアを個別に考え、利用者とのかわりでも知れた情報(言葉、身体状況、ケアの工夫)なども記録している。介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者、家族の状況におおじて、通院、受診の支援を行っている。独居のご利用者の帰省の送迎など支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の希望で、ご本人が住んでいた地域の方に自宅周りのくさとりをお願いしたり、馴染みの商店の方に、配達などをお願いしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や体調に応じて、訪問理容サービスを利用してもらっている。近くの歯科の先生に訪問していただき、義歯の調整をおねがいしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	サービス利用の問い合わせ、相談などの情報交換を行っているが、これからいっそう協力関係を築きたい。	○	利用者個々の権利擁護、困難事例など事業所内で解決できない問題について地域包括支援センターと連携を図り本人本位の支援につなげたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	y病院併設のホームであるが、利用契約時にご家族、本人の希望するかかりつけ医に続けて受診することが出来ることを説明し、支援している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	日々のかかわりの中で、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応がされているか常に注意している。ミーティングや申し送りで、職員全員でご利用者の対応を考え、意識向上を図っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で、声掛けし、意思の確認をするようにし、意思表示の困難な方には、表情を読み取ったり、難聴のある方には筆談で説明し、意思の確認、表示をしてもらい、一人ひとりの利用者が自分で決める場面をつくるようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者の希望や体調に合わせて、できるだけ個別性のある支援を行うようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	洋服の購入時、利用者が、自分で選んで購入したり、朝の着替えや入浴時の着替えは本人の希望を聞きながら用意し、自己決定がしにくい利用者には職員が日ごろの好みを考えながら支援している。理容、美容は本人の希望を聞きホームに来てもらったり、馴染みの美容院に家族に付き添ってもらい行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者の楽しみであるので、食材を利用者の好みにあわせ、調理し残さず食べてもらえるようこころがけている。準備や配膳、片付けなど一人、ひとり出来ることを手伝ってもらっている。行事食は事前にアンケートを取りメニューを決めている。利用者が食事をしている間は食事介助がいるため職員は交代で食事を取る。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	以前ご利用者に晩酌をされる方がおり、夜ホールでお酒を飲めるよう支援していた。現在は行事や外出時にお酒、飲み物の希望を聞き楽しんでもらっている。おやつは季節にあわせてたものを手作りし楽しんでもらっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレを各個室ごとに整備し、オムツ使用の方も、日中はトイレで排泄の支援をし、排泄チェック表を使用し、尿意を訴えられない方も時間を見計らって排泄の支援を行っている。夜オムツの方も日中は下着に尿取りパット、紙パンツを使用されていた方は、布の下着に替え随時見直しを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間は午後からと決めているが、入浴したい日や入浴時間(午後の何時ごろが良いなど)の希望やタイミングを考えながら支援している。一人ずつゆっくり職員と会話しながら入浴を楽しんでもらえるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自宅では夜間ねむれず、薬剤を使用されていた方が薬剤の見直しや、日中の活動を促すことで、生活リズムが整い夜間睡眠でき、表情が穏やかになりホームの生活に馴染まれている。体調や表情、希望等を考慮して、休養が取れるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草花の水遣り、団子汁作り、行事の挨拶など、利用者の経験や力を発揮する場面を作っている。お願いできそうな仕事を頼んだときは感謝の言葉を伝えるようにしている。ドライブなどの行き先の楽しみごとを利用者と相談している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方には、お金を所持してもらい、買い物の支払いや理容、美容代の支払いなどされている。ご本人の希望で、まとまったお金を預かり必要時に買い物など出来るよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム前の庭でお花見をしたり、行事やドライブで外出の機会を作っているが、散歩や買い物、銀行、市役所などに行く利用者は限られている。もう少し、戸外散歩などの回数を増やしたい。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	特別な外出支援を考えているが、具体的には現実していない。これから考えて行きたい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書けない方は代筆をしたり、電話を希望されるかたは、居室で子機を使いゆっく話してもらっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や馴染みの人の訪問は快くむかえることを職員に伝えている。訪問の時間により手作りのおやつをお茶に添えたり、遠慮なく本人と家族だけでゆっくり過ごせるよう心がけている。面会時間は定めておらず、ご家族の都合のいい時間に訪ねてきていただけるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常のケアの中で身体拘束が行われていないか、ミーティングや日々の申し送り等で、行っているケアを振り返り職員と考えている。ベット柵の必要時は家族に説明し、了解をいただき使用し、必要がなくなれば、早急に使用を止めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵を付けていない。日中は玄関に鍵をかけないが、先日、職員が気づかないうちに、利用者の方がホームの外を歩かれているところを併設の病院の看護師が発見しホームに連絡があった。すぐ前の道路を車がとったり危険なため、対応を職員で検討している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員は利用者と同じ空間で、食事の支度、記録等の作業を行いながら、見守りをしている。夜間は時間を決めて利用者の様子を確認し、その日の状態に応じて、様子の確認を頻回に行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	職員が見守りしながら、野菜の皮むきや服薬の支援を行っている。利用者の状態を把握し保管管理を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故やひやりはつとに関する報告、記録をし、ミーティング、定例会等で再発防止の話し合いを行っている。火災防止のため夜間巡視時ホームの外回りの確認を行っている。事故発生時には、家族への説明と報告を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の身体状態の急変や事故発生時には、併設の病院に連絡し医師、看護師の指示に従い対応している。日常的に、応急手当や初期対応の方法の指導を受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡表の作成、火災報知器の設置、消火器の点検、避難路の確保(整理整頓)を行っているが、避難訓練は行っていない。ホーム長、職員と対策を考えたい。運営推進委員会等で協力を呼びかけたい。	○	事業所全体で災害対策を考え、避難訓練を行いたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日常生活のなかで、利用者一人ひとりに起こりうるリスクを職員が共有し、家族等に、説明し、威圧感のない生活が出来るよう支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員に、普段の状況の把握を行い、変化や異常の発見に努めることをつたえている。変化等気づいた時は、バイタルチェックし、記録し併設の病院に報告、指示を受けるようにしている。申し送り等で、情報の共有をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	普段の状況報告や診察で、併設の病院からくすりを処方してもらう時は、薬の変更、目的、副作用、用法、用量のせつめいを受け、申し送りで全職員に伝えている。ほかの病院を受診時にも、家族に状況の報告をして治療や服薬調整の参考にしてもらっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	食材に季節の野菜、乳製品を取り入れている。体操や家事活動等で身体を動かしていただき、自然排便できるよう取り組んでいる。下剤を使用している場合は、個々の状態に合わせた使用量、頻度としている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアを課題にし勉強会を行い職員にケアの必要性をわかってもらい、日常的に、利用者の口腔状態や力に応じた支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量を毎日記録したり、水分制限のある 方の水分量の測定、記録をし、全職員が情報を共有してい る。利用者の食べ物、飲み物の好みを把握し、食事をおいし く食べられるような支援をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めが あり、実行している（インフルエンザ、 疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス 等）	季節、地域の感染症発生状況の情報収集をし、都度職員に 注意をうながしている。利用者および家族に同意いただき、 職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス 対策として、ペーパータオルを使用する等、予防に努めてい る。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場として の台所、調理用具等の衛生管理を行い、 新鮮で安全な食材の使用と管理に努めて いる	食器やまな板、包丁など、使用のたびに乾燥機で乾燥してい る。食材は、毎日併設の病院から新鮮なものを持ってきてもら い、魚介類、肉類はその日のうちに使い切るようにしている。 保管しているものは、賞味期限の確認をしながら使用する。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親し みやすく、安心して出入りができるよう に、玄関や建物周囲の工夫をしている	家庭的な雰囲気の玄関になるよう、玄関に花を活け、玄関先 のスペースに、ベンチを置き、季節の花や植物を植えたプラ ンターを置いている。案内板は名前と同じ桜の木を使い親し みやすい雰囲気にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、 食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	台所がホールのそばに配置されているため、食事の準備の 様子を見たり、味噌汁のにおいをかいだり、食卓に季節の 花を活け、生活感や季節感を採り入れ家庭的な雰囲気作りを 心がけている。職員も家庭に咲いた花を持参し、利用者喜闻 んでもらっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気 の合った利用者同士で思い思いに過ご せるような居場所の工夫をしている	ホールに椅子やソファを置き、気のあった利用者同士過 したり、一人で新聞を読んだり出来るよう、居場所の工夫をし ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や家族からのプレゼント、季節の花など飾り、できるだけ居心地良く過ごせるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室はご利用者がホールに出ている時は窓を開け、ホールも朝、まどを開け空気を入れ替えを行っている。換気扇が全室にあり24時間換気できる。温度調節はご利用者に聞いた様子を見ながら調節している。トイレは毎日の掃除と換気扇で悪臭が出ない工夫をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の手すり、浴室の踏み台、居室ごとのトイレ等で安全確保と自立への配慮をしている。活動性を維持するために、車イスや4点杖を個人の状態に合わせて採り入れている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	時間、や体調により、自分の部屋がわからないと言われるご利用者の部屋の入り口に表札をつけて、ご自分でみつけられるようにしたり、洋服が取り出しやすいように、引き出しに見出しをつけたりして状況にあわせて環境整備に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを置いて、利用者が一休みしたり、プランターに植えた花の手入れや水やりが出来るようにしている。春は玄関前の駐車場で日光浴、桜の木下でお花見をしている。		

## V. サービスの成果に関する項目

項目		最も近い選択肢の左側に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

口腔ケア、じょく瘡予防の勉強会を職員全員で行い、ケアに取り入れている。オムツを使用されている方も、日中は下着（布のパンツ）に変えて過ごしていただき、オムツの使用量を減らす努力をしている。